

令和6年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会 議事録

日 時：令和6年8月19日（月）午後2時00分から午後3時30分まで

場 所：本庁舎2階201・202会議室

参加者：推進委員会委員14名（別添名簿のとおり）

保健福祉部 板橋部長兼福祉事務所長

社会福祉課 平井課長、小田課長補佐、吉村係長、薄井主査、長濱主査

社会福祉協議会 鹿野事務局長、後藤地域福祉課長、福田係長、阿久津主任、柴田主任

1 開会

【平井課長】

皆さまこんにちは。本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。私、本日の司会を務めさせていただきます、社会福祉課長の平井と申します。

ただ今から、令和6年度那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会を開会させていただきます。

開会に当たりまして、保健福祉部長兼福祉事務所長の板橋から挨拶を申し上げます。

2 課長挨拶

【板橋部長】

皆さま、こんにちは。保健福祉部長兼福祉事務所長の板橋でございます。

本日はお忙しい中、そして非常に暑い中、地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会に出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また、各委員の皆さまにおかれましては、常日頃から本市の福祉行政に深い理解と多大なるご尽力をいただきまして、この場をお借りして深く感謝を申し上げます。

さて、福祉行政を取り巻く環境としましては、全国的な傾向ではありますが、本市におきましても少子高齢化、核家族化の進行、地域の中の人と人のつながりが希薄化する傾向があります。さらには、8050問題、ひきこもり問題など非常に大きな問題が福祉行政の中で山積しています。

こうした大きな課題に対応するため地域共生社会を目指していくには、行政、地域、社会福祉協議会をはじめとする関係団体、関係機関との連携を今まで以上の連携強化を考えている次第でございます。

本日の会議では、第4期計画に初年度である令和5年度の取組につきまして、進捗状況であったり、取組の中での評価をしていただくことになっています。

簡単ではありますが、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いしたいと思います。

3 委員自己紹介

—委員→事務局の順に自己紹介—

本日、後ろの席に社会福祉協議会から実習生4名が出席しております。

4 委員長及び副委員長の選出

【平井課長】

それでは、次第4の委員長及び副委員長の選出に移らせていただきます。

地域福祉計画推進委員会設置要綱第4条において、「委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める」と規定しております。委員長及び副委員長の互選について、どのように行うか、ご意見をお願いします。

—事務局に一任—

【平井課長】

それでは、事務局案を申し上げます。

委員長に、自治会長連絡協議会の橋本 秀晴 様、副委員長に、太陽の里福祉会 松本 和重 様をご提案申し上げます。委員の皆様いかがでしょうか。

—異議なしの声あり—

【平井課長】

委員長に橋本 秀晴 様、副委員長に松本 和重 様ということで決定いたしました。前の委員長席へご移動ください。

早速ではございますが、橋本委員長から、本推進委員会の開催に当たりまして、一言ご挨拶賜りたいと思います。

5 委員長挨拶

【橋本委員長】

ただいま委員長に選任されました橋本でございます。本日はご多用のところ、また暑い中ご参会をいただき大変ありがとうございます。

立秋となりましたが猛暑が続いております。この気候変動や地震など、どのようなものか懸念しているところです。

さて、第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画は令和5年度から施行となりました。委員の皆様におかれましては、策定に携われた方も多数いらっしゃると思います。

従前ですと縦割りの行政でありましたが、包括的な支援体制構築のために今回は重層的支援体制整備事業を取り入れて3つの基本目標を立てています。1つ目に「相談支援の充実」、2つ目が「社会参加の促進」、3つ目に「地域づくりの強化」です。「地域づくりの強化」については、自治会長としての立場からみて、だいたい定着してきたと思っています。

市民アンケートや今までの計画の課題などを包括的に盛り込んで11の施策を展開しています。

事前に皆様へ65事業の資料をお送りし、進捗の状況、事業の評価をやっていただいて、今回この会場にご参会いただいております。この後、本会の進め方については、事務局から説明がありますので、みなさまのご協力をいただきながら円滑に進めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

【平井課長】

ありがとうございました。それでは、次第6の協議事項の前に本日の会議資料について、確認させていただきたいと思えます。不足している場合には、予備の資料を配付いたしますので、お申し出ください。

【平井課長】

ここで、改めてまして、本推進委員会の目的と役割、そして本日の会議の目的について、事務局から説明させていただきます。

【薄井】

本計画の推進に当たっては、計画の進行管理・評価のため、PDCAサイクルの考え方に基づき、毎年度、自己評価と外部評価を実施しています。その外部評価として地域福祉の関係者によって構成される本推進委員会が、市、社会福祉協議会がその年度に実施した取組、事業について評価を行うこととしています。本日の会議では、第4期計画の令和5年度の取組について、基本目標ごとに本委員会全体の評価を議論いただきます。

【平井課長】

それでは、次第6協議事項に移ります。ここからは、橋本委員長に進行をお願いしたいと思えます。

6 協議事項

(1) 全体評価について

①令和5年度実施分の評価について

【橋本委員長】

それでは、ここからは、私の方で進行させていただきますが、令和5年度の評価の前に、令和5年度の内部評価について、事務局に説明いただきたいと思います。

【薄井】

それでは資料に基づいて、令和5年度実施分の評価についてご説明申し上げます。お手

元の資料、資料①「推進委員の評価集計及び総合評価シート」、資料②「取組（令和５年度）に対する委員の御意見」、資料③「第３期地域福祉計画・地域福祉活動計画における令和５年度評価について」の資料をご覧ください。

－資料①～③により説明－

② 令和５年度実施分の評価の進め方の説明

【橋本委員長】

それでは、これから委員による全体評価を進めてまいりたいと思います。

本日の全体評価は、お手元の名簿のとおり３つの小委員会に分かれて、委員の皆様から事前にいただいた個別評価の集計（資料①）及びご意見（資料②）を参考にしていただき、各小委員会において基本目標１から３の取組状況について、ＡＢＣ評価を議論していただきます。

併せて、評価についての附帯意見及び各部署の取組内容についての指摘事項等について、小委員会のご意見としてまとめていただきますようお願いいたします。

小委員会での議論が終了しましたら、それぞれの小委員会の評価結果、ＡＢＣ評価の理由と附帯意見等を報告していただきたいと思います。

その後、全体の中で附帯意見等の確認を行っていただき、推進委員会の全体評価としてとりまとめを行いたいと思います。

評価委員会後の各課へのフィードバック等につきまして、事務局から説明をお願いします。

【薄井】

推進委員会での評価結果及び付帯意見等は、市及び社会福祉協議会の担当部局に対し、今年度及び来年度の事業推進に反映させるようフィードバックを行います。

フィードバックした事柄について、担当部局がどの程度実現できた等については、来年度の会議で報告させていただきたいと考えております。

最後に、今回の評価結果及び委員の皆様からのご意見並びに会議録については、後日、市と社協のホームページにて公表し、その際には、委員の一覧表も併せて公表いたしますので、予めご了承ください。

なお、評価等の公表に当たり、各ご意見については、どの委員からのご意見であるかは無記名とさせていただきます。

【橋本委員長】

本日は、以上の説明のとおり評価を進めさせていただきたいと思いますので皆様ご了承ください。

それでは各小委員会に分かれて評価を進めてまいりたいと思います。

まずは、各小委員会の中で進行役を決めていただき、３０分程度で評価をまとめていた

だきたいと思います。

その後、小委員会ごとに評価を報告いただき、最終的なとりまとめを行いたいと思います。

時間も限られているかと思いますが、小委員会ごとの議論から最終とりまとめまで概ね1時間程度で進めていただければ幸いです。

それでは小委員会ごとによりしくお願いいたします。

－第1～3小委員会に分かれて評価－

③令和5年度実施分の評価

【橋本委員長】

最初に基本目標1「相談支援の充実」について、各委員会から評価結果及び付帯意見の報告をお願いします。

(第1小委員会)

藤村委員：施策の方向性に対する評価はすべてBであり、総合評価はBとなりました。

子育て相談センター運営事業の成果指標が利用人数になっており、これだけではどのような相談支援されているのか分かりにくいため、他の指標があるとよいのではないかと。相談内容について様々なデータはあるが、評価の指標とすることは難しいのではないかと。ひきこもり相談では更なるネットワークの充実が必要で関係機関の連携がされるとよい。以上の意見がありました。

(第2小委員会)

山越委員：施策の方向性は全部B評価で、総合評価はB評価となりました。

どこに相談したらよいかわからない場合は、社会福祉協議会の窓口を案内している。C評価だった社会福祉法人の連携について、集まる機会がなかった、BCPについて一緒に話せる機会があればよい。父母の会では、今はSNSで情報を収集できる、会員を増やすことは難しい、世代間の交流がない、若い会員が少ない。学校では子育て相談課との連携はよくできている。家庭が相談先をわかっているかは疑問がある、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが今後増えてほしい。孤立している家庭、ヤングケアラーなどは、つなぎ先、地域と関わりが課題となっている。スクールソーシャルワーカー制度の使いやすさが不十分ではないかと。以上の意見がありました。

(第3小委員会)

中村委員：施策の方向性はすべてBで総合評価はB評価となりました。

庁内の連携の取り組みが進み、庁内の縦割りがなくなってきているので情報の

共有がしやすくなっている。情報提供では、誰に情報を届けるのか、情報を発信しても届いているか確認ができないなど踏まえて情報発信の方法を検討する必要がある。以上の意見がありました。

【橋本委員長】

ありがとうございました。ただいま、でました附帯意見については、事務局で取りまとめをお願いします。各小委員会からの評価、附帯意見に関して、ご質問、ご意見のある方は挙手をお願いします。

【委員】 質問・意見なし。

基本目標 1 に対する総合評価はBでよろしいでしょうか。

【委員】 異議なし。

では、基本目標 1 の総合評価はBといたします。

次に基本目標 2「社会参加の促進」についての評価結果及び附帯意見のご報告をお願いいたします。

(第 1 小委員会)

藤村委員：方向性に対する評価は、すべての項目でBとなり、総合評価はBになりました。

ひきこもり支援では、本人にアプローチが難しいケースでは、実際の支援においては、まずは周りの家族から徐々に支援している。制度の狭間の人々がサービスを利用しにくい。障害支援サービスでは、障害がない方でも受け入れて体験をしてもらい、先に進むきっかけになっている。目的のない居場所が必要ではないか。クーリングシェルターのような目的がなくても、なんとなくそこにいられることが必要ではないか。以上の意見がありました。

(第 2 小委員会)

山越委員：すべての項目でBとなり、総合評価もBとなりました。

子ども食堂で、多動がある下の子の参加を断ったら上の子が下の子を見るようになり、解決に至らなかった事例があった。地域学校協働本部推進事業について、メンバーに主任児童委員を入れることで学校と地域の連携が大切にしている。軽度障害であれば施設での受け入れが可能だが、重度障害だと受け入れてくれる施設がなく、入所施設がないと生きていけない人がいる。地域学校協働本部推進事業については、委員選びが重要であり、若い世代や女性の意見を取り入れることが重要である。地域の理解を進めないと社会参加にいたらない。以上の意見がありました。

(第3小委員会)

中村委員：すべての項目がBで総合評価もBとなりました。

目標値がないと評価が難しいため、何らかの指標があるとよい。ひきこもりなど表面化しにくいケースは思っている以上に多いため把握する方法を検討する必要がある。高齢者のつながりとしての敬老事業事業などの効果を行政で考えてほしい。障害者の就労したときの定着率について、辞めてしまう原因を把握する必要がある。以上の意見がありました。

【橋本委員長】

ありがとうございました。ただいま、でました附帯意見については、事務局で取りまとめをお願いします。各小委員会からの評価、附帯意見に関して、ご質問、ご意見のある方は挙手をお願いします。

【委員】 質問・意見なし。

基本目標2に対する総合評価はBでよろしいでしょうか。

【委員】 異議なし。

では、基本目標2の総合評価はBといたします。

それでは、次に、基本目標3「地域づくり（地域力の強化）」についての評価結果及び附帯意見のご報告をお願いいたします。

(第1小委員会)

藤村委員：1～3番まで全てBとなり、総合評価はBとなりました。

地域づくりについて、子育てサロンではお母さんが支援される側で集まってくるが、小さなことで誰かの力になりたいと思っているので、小さな活動が地域で広がるとボランティア活動ができない人でも些細なことで社会参加ができるのではないかと。以前、市が取り組んでいた、市民が普通の生活をしながら子供たちを見守りする活動が広まっていなかったため、市の方で定期的にアナウンスしてもらい広がってほしい。精神疾患などの病気をお持ちの方のための活動として、イベントを通して他の人との接点を作り、理解促進につなげている。新興住宅地では挨拶だけの現状に対しては、きっかけづくりが大切であり、しゃべらないと始まらないので、ささいなことでも声掛けから関係性が深まる。以上の意見がありました。

(第2小委員会)

山越委員：評価については全てBとなり、総合評価はBとなりました。

自治会加入率がなかなか上がらない。アパート、マンション、分譲地で加入者が少ない。どのように参加してもらうか自治会に投げられても困り、民生委員で見て

いくことはとても大変な状況である。自治会、コミュニティ自体を考え直す必要がある。若い世代の考え方を取り入れていくことが大切である。三島地区では、地域学校協働本部に20代の方をメンバーとして入れている。育児中のお母さん、認知症の高齢者の方、小・中学生などの世代間の交流が図れる多世代が自然に集まれる居場所が必要ではないか。以上の意見がありました。

(第3小委員会)

中村委員：評価については全てBとなり、総合評価はBとなりました。

地域住民助け合い事業について、足並みが揃ってきているが、その後に何をするのかを検討すべき。自主防災組織について、地域での温度差があるが、地震、豪雨などのいろんな災害が懸念される中で、組織を立ち上げる後押しの時期ではないか。高齢者、子どもに対する支援は充実しているが、働き盛りの世代が地域活動へ参加できるように支援が必要でないか。サロンについては、元気な高齢者は通われているが、健康に不安がある高齢者も来れるよう検討すべきでないか。自殺率の目標値が13.2%となっているが、13人まで自殺してよいともとれるので、目標は0%にすべきでないか。以上の意見がありました。

【橋本委員長】

ありがとうございました。ただいま、でました附帯意見については、事務局で取りまとめをお願いします。各小委員会からの評価、附帯意見に関して、ご質問、ご意見のある方は挙手をお願いします。

【委員】 質問・意見なし。

基本目標3に対する総合評価はBでよろしいでしょうか。

【委員】 異議なし。

では、基本目標3の総合評価はBといたします。

ありがとうございました。以上ですべての評価が終了いたしました。市や社会福祉協議会におかれましては、本日の内容を踏まえまして、今後の市の福祉を今後の市の福祉を向上させるための施策に反映させていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

7 その他

【平井課長】

それでは、次第7のその他になりますが、委員の皆様方から、市や社協に対して、何か

ご意見ありますでしょうか？

－意見なし－

【事務局】

①報酬及び費用弁償（旅費）のご案内

8 閉会

【平井課長】

それでは皆様大変お疲れ様でした。これにて、本日の推進委員会を閉じさせていただきたいと思います。お気をつけてお帰りください。